

オーデコートGエコつや有り(N)

■特 長

- 1.揮発性有機化合物量(VOC)が非常に少なく、室内環境に配慮した水性塗料です。
- 2.水性つや有り塗料特有の仕上がり後の粘着感が気になりません。
- 3.藻・かびの発生を抑え、建物の美観と清潔な環境をまもります。
- 4.防火材料認定を取得しています。

防火材料認定番号	品目名
NM-8585	塗料塗装/不燃材料
QM-9816	塗料塗装/準不燃材料
RM-9364	塗料塗装/難燃材料

■用 途

一般住宅、学校、幼稚園、託児所、介護施設、病院、ホテル、オフィス、レストラン、食品工場などの建物内部のコンクリート・モルタル・ボード類や鉄部、木部など

■基本性能 JIS K 5660、つや有合成樹脂エマルションペイントの規格相当。

試験項目	規 格	性 能
容器の中での状態	かき混ぜたとき、堅い塊がなくて一様になるものとする	合格
低温安定性(−5℃)	変質してはならない	合格
塗装作業性	支障がない	合格
乾燥時間 h	標準状態 2以下	合格
	5℃ 4以下	合格
塗膜の外観	塗膜の外観が正常であるものとする	合格
隠ぺい率% (白および淡彩)	95以上	合格
鏡面光沢度(60度)	70以上	80
耐水性	異常がない	合格
耐アルカリ性	異常がない	合格
耐洗浄性	洗浄に耐える	合格
耐湿潤冷熱繰返し性	湿潤冷熱繰返しに耐える	合格
促進耐候性	光沢保持率が60%以上、白亜化の等級は1又は0で、色の変化の程度が見本品に比べて差がない	合格
屋外暴露耐候性	白亜化の等級は2.1又は0で、割れ、はがれ、膨れ及び穴がなく、色とつやの変化の程度が見本品に比べて差がないものとする	合格

■塗料性状

塗料名	色 相	つ や	容 量	希釈剤	希釈率(%)	使用量(kg/m ² /回)	塗装方法
オーデコートGエコ	各色	つや有り	15kg 4kg	水道水	0~10	0.13~0.15	はけ、ウールローラー エアレススプレー

■ 標準塗装仕様

工 程	塗 料 名	塗り回数	使用量 (kg/m ² /回)	塗り重ね乾燥 時間 (23℃)	希 釈 剤	希釈率 (%)	塗装方法
-----	-------	------	-------------------------------	--------------------	-------	---------	------

■ コンクリート・モルタル

下 地 調 整	被塗面のごみ、ほこりを除き、清浄な下地とする。						
下 塗 り	水性カチオンシーラー (ホワイト・透明)	1	0.10～0.16	4時間以上	水 道 水	ホワイト:0～10 透明:無希釈	はけ、ウールローラー
			0.12～0.16				エアレススプレー
上 塗 り	オーデコートGエコ つや有り(N)	2	0.13～0.15 ^{注)}	4時間以上	水 道 水	0～10	はけ、ウールローラー エアレススプレー

■ 鉄 部

下 地 調 整	膨れたり、割れたり、浮いている劣化塗膜、さび、付着物などの周辺をワイヤーブラシ、ケレン棒、電動工具などで除去する。 油脂分、水分は溶剤拭きを行い清浄な面とする。						
下 塗 り	水性ハイボンプライマー ^(注)	1	0.13～0.16 ^(注)	4時間以上 7日以内	水 道 水	0～5	はけ、ウールローラー
上 塗 り	オーデコートGEI つや有り(N)	2	0.13～0.15 ^(注)	4時間以上	水 道 水	0～10	はけ、ウールローラー エアレススプレー

※上記の各数値は、すべて標準のものです。被塗物の形状、素地の状態、気象条件、施工条件によりそれぞれ多少の幅を生じることがあります。塗料の塗り重ねは所定の塗り重ね乾燥時間をまもってください。(縮み、割れ、乾燥不良、付着不良などが起こります)

※旧塗膜は、健全な状態であることを想定しています。

※カタログに記載されている内容は一般的な環境下での施工を想定して記載されております。特別な環境が想定される施工現場・部位に塗装される場合は、事前に必ず当社までご相談いただきますようお願いいたします。

注)・「オーデコートGエコ」の塗付量は、0.12kg/m²/回です。

・「水性カチオンシーラー」の塗付量は、0.09kg/m²/回です。

・使用量：被塗装面単位面積あたりの塗装材料（希釈する前）の使用質量

・塗付量：被塗装面単位面積あたりの塗装材料（希釈する前）の付着質量

全行主・次支店等平価面積のたつち支店等(市街地)の割合が約2割に達

■ コンクリート・モルタル用下塗り塗料

水性カチオンシーラー透明、水性カチオンシーラーホワイト、水性透明シーラー、
水性ホワイトシーラー、水性シミ止めシーラーⅡ

■ 鉄部用下塗り塗料（さび止め）

水性ハイポンプライマー、ハイポンプラインプライマーⅡ、
1液ハイポンプラインデクロ、（使用するさび止め塗料の肌の違いにより、上塗り塗装後の
エスパーワンエース 外観・光沢感に若干の差異が生じる場合があります。）

■ 木部用下塗り塗料

水性ウッドベースⅡ、1液ファインウレタンU100木部用下塗

■ **施工上の注意事項** ● 詳細な内容については、各商品の製品使用説明書などにてご確認ください。

- おおよそ結露が発生するおそれがある用途、場所での使用を避けてください。著しい結露が発生する場所では、塗料中の水溶性成分が表面に溶出し、粘着物質などとなって析出するおそれがあります。著しい結露が予測される場合は、塗装を避けるか、溶剤系塗料での塗装をおすすめ致します。
2. 著しい劣化を及ぼす建材（軽金属建材、ALC、窯業サイディング、発泡ウレタン使用建材など）を使用した「高断熱型外壁」、旧塗装の「弾性シール、弾性タココ、アクリル樹脂の塗料」、塗装後シロート等での旧塗装が剥がれていることがあります。そのまま塗装すると剥がれがさらに拡大する可能性がありますので、完全に除去してください。また「高断熱型外壁」に塗装する場合は、蓄熱、水分、下地の状態、塗装環境など適切な条件が整わないことで、建材の変形、塗膜の膨れ、はく離が生じる場合がありますので、最悪の営業所までご相談ください。
3. 塗装場所の気温が5℃未満、もしくは湿度85%以上である場合、または換気が十分でなく結露が考えられる場合、塗装は避けてください。
4. 雨漏り被害をこうと本来のつやが現れないおそれがありますので、規定の希釈量を多くしてください。
5. 防凍剤および抗藻剤は、繁殖を抑制するものです。特に著しい結露は、下地処理と除去および殺菌処理をしっかりと行って塗装してください。
6. 塗装後、乾燥不十分な状態で降雨結露などがある場合や、低温、高湿度、通風のない場合には、膨れ、はく離、割れ、白化、シミが発生するおそれがありますので、塗装を避けてください。やむを得ず塗装する場合は、強制換気などで湿気を飛ばすようにしてください。シミが発生した場合は乾燥後水拭きして除去してください。
7. 色相によって降雨、結露によってぬれ色になる場合がありますが、乾く速く2日へ戻ります。
8. 乾燥後の塗膜に付いた汚れは、シミあるいは溶剤では拭かず、セッシーナで水拭きしてください。
9. スーパーボウル先の先端は、ときどき洗いをししてください。作業環境の低下および塗りの原因になります。
10. 乾燥条件によっては塗膜表面に粘着を感じることがありますが、時間とともになくなります。
11. 動植物は、はけが傷めたりダメージになりますので、できるだけ塗装の作業を避けてください。
12. JIS K 5663-1 篇（主として屋外用）の試験に合格する性能を有しておりますが、耐久性が必要な外壁には、外壁専用塗料をご推奨いたします。
13. 腐蝕剤、酸液被覆用ハ酸カルシウム板、クロークロールなどの非常に強い弱酸性材には塗装できません。
14. 水点下で貯蔵すると凍ります。凍らないよう5℃以上で貯蔵、保管してください。
15. 日置面に発生した藻かびは、洗浄などでも必ず除去し、清浄な状態としてください。付着菌害をおさすおそれがあります。
16. 風化面・吸込みびの著しい下地では、ニッペ液浸透シーラー（新）、ニッペ液浸透シーラー、ニッペファン浸透シーラー、ファンパーブローイングシーラーをご使用ください。
17. シーリングの上、劣化、ひび割れなどの損傷がある場合は、打ち直しをしてください。
18. やむを得ず付着している場合は、ウェスなどでやわらかく水拭きして除去し、被塗面を十分に乾燥させてから塗装してください。希釈を少なくし、1回目の塗装を十分乾燥（目安20℃、6時間）させた後2回目の塗装をするように止めがけを行います。シミ、あく面は止まりにくい場合がありますので、ウェスなどで水拭きを行い、被塗面を十分乾燥させてから塗装してください。
19. 外壁面の洗浄や付着した菌に塗膜表面に付着すると、変色や早期劣化などを生じることがありますので、このような場合は必ず付着箇所を事前に徹底に洗浄を行ってください。
20. 塩化マグネシウムの場合は、ぬれ、浮きなどは接着剤で貼り付け、ローラーで圧着し、類似クロスで面合わせをするなどしっかりと補修してください。また付着の程度が低下している場合、塗りの途中でクロスが浮きわたってくることもありますので、クロスのおおむね部分にはあらかじめ接着剤を当て押さえておくことが安心です。
21. 素地表面のアルカリ度はpH10以下、表面含水量は10%以下（ケツ科科学社「CH-2」で測定した場合）、または5%以下（ケツ科科学社「H5000シリーズ」コグニートレンドで測定した場合）の条件で塗装してください。
22. ALC面、多孔質土、コンクリートブロック面など外郭の素地に設けた巣穴や段差などがある場合は、樹脂入りセメント土で凹凸調整（ニッペ1材カチオンファイバー、ニッペ1材ファイバー#200）などで処理してください。（合成樹脂エポキシ樹脂の使用は避けてください。）
23. 内外壁の新設形状の場合は、必ず下塗りシーラーを塗装してください。
24. 新築の押出成形セメント板、GRC板、プレキャストボードなどは、下塗り材としてニッペ液浸透シーラー（新）、ニッペ液浸透シーラー、ニッペファン浸透シーラーをお使いください。
25. 塗装前後から腐食にけがれるような外壁の一部やすきなどでは、皮膚の影響により塗膜表面の酸化が起こるおそれがあります。必要に応じて保護シートなどで接触防止を行ってください。
26. 屋外の塗装で降雨、降雪のおそれがある場合、および強風時は塗装を避けてください。
27. 塗装時および塗装後に密閉または換気が遅れますので、換気を十分にしてください。
28. 塗装時および塗装後の取り扱い時は、乾燥を十分に払い、火気厳禁にしてください。
29. 飛散防止のため必ず養生を行ってください。
30. シーリング面への塗装は、塗染の汚染、はく離、収縮割れなどの不具合を起こすことがありますので行わないでください。やむを得ず行う場合は、シーリング材が完全に硬化した後に行うものと、塗り重ねの適応性を確認し、必要な処理を行ってください。また、ニッペロープライマーを下塗りすることで、可塑剤移行による汚染の低減が図れますが、シーリング材の種類、使用条件などによりはく離、収縮割れが起こることがあります。
31. 笠木、天端など長時間水が滞留する箇所では塗膜の白化、膨れなどが発生する場合がありますので、養生シートの設置方法などに配慮し、換気を促してください。
32. 薄めすぎは隠れひき不足、仕上がり不良などが起こるため規定範囲を超えて希釈しないでください。
33. 上塗りにはたいていエポキシ、レッド、ブルー、グリーン系希釈剤を使用する場合は、色色を下塗りしてから塗装してください。なお、特に付与された色相では、色色を下塗りしても標準の使用量、塗装回数で隠れ不出来な塗装があるため、事前に試験塗り・試版等をご確認ください。
34. 色調には必ず当工事専用の原色をお使いください。
35. 濃彩色や冴えた原色の場合、塗膜を強く擦ると色落ちすることがあります。衣類など接触する可能性のある部位には使用しないでください。なお、状況により常時接触するような箇所を使用する場合は、ファンシッシュコンプレックス・ジュクラーを上塗り塗装してください。グレイヤーのローラー及び刷毛塗装で、下塗り塗装の再溶剤や塗みが発生する場合には、スプレー塗装を行ってください。
36. 濃彩色を塗装する際には、つむむが目立ちやすくなるおそれがありますので、事前に試し塗りを試して確認の上、ご使用ください。
37. 大面積の塗装では補修部分が目立つことがあります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの条件を同一にしてください。
38. はけ塗り仕上げとローラー仕上げが混在する場合、使用量、表面艶が異なるため若干の色相差がでますので、はけ塗りの部分には希釈を少なくして塗装してください。
39. ローラー塗りの場合、ローラー目または同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相や仕上がり感が異なって見えることがあります。
40. 塗装方法により色相が多少変化する場合がありますので、ローラー塗りはできる限り入り隅まで入れてください。
41. 汚れ、すきなどにより補修塗りが必要な場合があります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの塗装条件を同一にしてください。
42. 布クロス、紙クロスや汚染防止のクロス（シロコ）加工で水をかけると著しくはく（く）ロスには塗装できません。塩化クロスを可塑剤希釈が考えられる場合は所定の仕様で塗装してください。
43. ローラー、はけなどは、ほかの塗料での塗装に使用すると、はきなどが発生するおそれがありますので、十分に洗浄するが、専用にしてください。
44. 塗料がひき込まれる場合には、また、ひき込まれた部分に直接触れることがないようご注意ください。
45. 平滑仕上げ・鏡面仕上げの場合は、素材や表面の状態により、吸込みや巣穴によるピンホール、凹凸などを防止するため、バリエーションと施工工程に留意する必要があります。
46. 塗料は内容物均一になるようにかき混ぜてください。特に予備調整品では、つや消剤が沈降している場合がありますので、かき混ぜる際に底の沈降物を十分にかき混ぜてご使用ください。
47. 閉封後は一度は使い切ってください。やむを得ず保管する場合は密閉してから冷蔵庫で保存し、速やかに使い切ってください。
48. 塗料漏洩の原因になりますので、保管・運搬時に容器を横倒ししないようにしてください。
49. 製品の安全に関する詳細な内容については、安全データシート(SDS)をご参照ください。
50. 内容物・容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って産業廃棄物として廃棄してください。
51. 塗料、塗料容器、塗装具を廃棄する時には、産業廃棄物として処理してください。容器、塗装具などを洗浄した排水は、そのままだま排水溝に流すや環境に悪影響を及ぼすおそれがありますので、排水処理場などの施設に持ち込むが、産業廃棄物処理業者に処理を依頼してください。
52. 本製品は日本国内での使用に限定し、輸出される場合は、事前に相談ください。

日本ペイント株式会社

北海道支店 ☎ 011-370-3101 近畿支店 ☎ 06-6455-9608
東北支店 ☎ 022-232-6711 中国支店 ☎ 082-281-2180
関東支店 ☎ 03-5479-3614 四国支店 ☎ 0877-56-2346
北関東・東越支店 ☎ 03-5479-3614 九州支店 ☎ 092-751-9861
中部支店 ☎ 052-461-1960

- 本カタログの内容については、予告なしに変更する場合がございますのであらかじめご了承ください。
●本カタログ中の製品名および、日本ペイントホールディングス株式会社または日本ペイント株式会社、その他の会社名、会社名およびその他の国の登録商標または商標です。
●©Copyright 2023 NIPPON PAINT Co.,Ltd All rights reserved.
●日本ペイントホームページ <https://www.nipponpaint.co.jp/>

■詳しい情報はホームページで

日本ペイント

建物

检索 <http://www.nipponpaint.co.jp/biz1/building.html>

カタログ

NP-B097

SS230904T
2023年9月現在